



JSTCT Letter No.102

Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会

April 2026

目次

理事長就任のご挨拶	ii
【御礼】JSTCT2026総会オンデマンド配信(5/11まで)・アンケートのご案内	iii - v
2026学会年度 社員総会・評議員会 承認・決定事項等のお知らせ	vi - ix
ワーキンググループ 新規メンバー募集のお知らせ／二次調査実施のお知らせとご協力をお願い	x
HCTC委員会からの報告	xi - xii
看護部会企画「第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会を終えて」	xiii
私の選んだ重要論文「東京都立大学人間健康科学研究科 看護科学域 大庭 貴子 先生」	xiv
施設紹介「大分大学医学部附属病院 血液内科」	xv - xvi
会員の声「京都大学医学部附属病院 血液内科・細胞療法科 新井 康之 先生」	xvii

● 2026学会年度分年会費のご納入について

[会員マイページ](#)からのクレジットカード決済が可能です。クレジットカード決済を利用されない会員の皆様には近日中に払込用紙をお送りいたしますので、今しばらくお待ちください。

● 本学会会員情報へのご登録内容変更につきまして

ご勤務先の変更等に伴いご住所、メールアドレス等会員登録情報に変更がございましたら、[会員マイページ](#)よりご変更いただくか、Eメール、FAX等にてお早目に事務局までお知らせください。

→[学会HP「登録情報の変更・休会・退会について」](#)

● ご登録いただいているご住所について

本学会では、会員の皆様に対する重要書類、学会総会抄録号などはご登録いただいている住所にお送りしています。宛先不明で返送されてしまった場合、それ以上の対応ができなくなるおそれがありますので、ご自身でのご対応をよろしくお願い申し上げます。

● ご登録いただいているメールアドレスについて

本学会では、皆様に対する各種ご案内の多くをEメールにて配信しておりますが、昨今、アドレス変更の届出漏れが多く、メールが不達となる会員の方も多数みられます。一定期間、事務局からのメールが届いていない方は、一度、事務局 (jstct_office@jstct.or.jp) までお問合せくださいますようお願い申し上げます。

【JSTCT事務局より】

理事長就任のご挨拶

日本造血・免疫細胞療法学会 理事長 福田 隆浩



このたび、日本造血・免疫細胞療法学会(JSTCT)の理事長を拝命いたしました。歴代の理事長、理事、評議員、そして会員の皆さまが築いてこられた本学会の歩みを受け継ぐ重責に、身の引き締まる思いです。まずは、日頃より本学会の活動を支えてくださっている医師、看護師、HCTC、リハビリ職、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師をはじめとする多職種の会員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

JSTCTは、「造血細胞移植や免疫・血液細胞治療のプロフェッショナルな医療人として一丸となり、患者さん、他の学術団体、民間団体、企業、行政とも連携を密にして、難治性の血液疾患などの患者さんに対し、有効で安全な治療法を届けること」を目的として活動する学会です。私は、この使命をより具体的に前進させるために、今後3つの柱を大切にしていきたいと思います。

第一は、「ひとりでも多くの患者さんに完治を」目指した **All Japanの取り組み**です。造血細胞移植は、合併症のリスクも高く、経験豊富な多職種チームであっても容易ではない医療です。全国の各施設が、それぞれに喜びも悔しさも経験しながら、日々診療にあたっています。だからこそ、全国で経験と知恵を持ち寄り、学び合い、支え合うことが必要です。特に、小児診療科と成人診療科の交流は、小児期移植患者の成人診療科への移行医療といった観点からも重要であり、今後さらに強化すべき課題と考えています。JSTCT2026総会で掲げた方向性を、学会全体の継続的な取り組みへと発展させてまいります。

第二は、「移植分野で必要な薬剤や検査を、海外とのラグをできるだけ小さくして患者さんへ届けること」です。診療の現場で必要とされる薬剤、検査、治療手段を適切なタイミングで導入していくためには、PMDAや厚生労働省との連携が不可欠です。さらに実臨床の課題を研究につなぎ、その成果を制度や開発へ橋渡しするためAMEDや厚生労働科研などの研究班との連携を一層深めてまいります。

第三は、「多職種の若手育成」です。移植医療は、医師だけで完結するものではありません。看護師、HCTC、リハビリ職、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師など、多職種がそれぞれの専門性を持ち寄ることで初めて支えられる医療です。総会での教育企画や交流の場に加え、学会として継続的に若手を支える仕組みを整えていきたいと考えています。特に、まだ移植領域との接点が少ない若手血液内科医や研修医に向けて、移植医療の魅力と基礎を学べる場を企画してまいります。

本学会は、全会員の約3分の1が医師以外の多職種であること自体が大きな強みです。この強みをさらに活かし、臨床、研究、制度、教育を有機的につなぐことで、患者さんにとってより安全で有効な医療を届けられる学会へと発展させていきたいと考えています。会員の皆さまのお力添えなくして、この目標は達成できません。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【御礼】JSTCT2026総会オンデマンド配信(5/11まで)・アンケートのご案内

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 会長 福田 隆浩
(国立がん研究センター中央病院・造血幹細胞移植科)

平素より本学会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会(JSTCT2026)は、多くの皆さまのご参加とご支援により、盛会のうちに終了いたしました。演題をご登録・ご発表いただいた先生方、学会運営を支えてくださった関係者の皆さま、そして会場に足を運んでくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。

本総会では、一般演題登録数が557題とコロナ禍以降で最多となり、特に医師演題の半数以上を35歳以下の若手医師、研修医、学部学生が占めました。若い世代の積極的な参加は、本学会の将来にとって大きな希望であり、総会全体に新しい活気をもたらしてくれました。また、参加登録者数も4,402名と史上最多となり、会場の随所で熱気あふれる議論が交わされていたことを大変うれしく感じております。その一方で、東京マラソン開催に伴う会場制約の影響もあり、ポスター会場が手狭であったことや、セッション間の移動時間が短くなったことなどのご意見をいただきました。ご不便をおかけした点につきまして、お詫び申し上げます。こうした点も含め、今回いただくご意見を今後の改善に活かしてまいります。

【オンデマンド配信のご案内】

参加登録いただいた皆さまには、ぜひオンデマンド配信もご活用いただければ幸いです。今回の総会では、「今、私たちが聞きたい」テーマを意識して特別演題を企画しており、内容は非常に盛りだくさんです。当日ご参加いただいた方も、並行セッションのため聴講できなかった演題が少なくなかったのではないかと思います。また、現地参加が難しかった方にとっても、学びを補う貴重な機会になるはずです。

視聴期間は5月11日までと比較的長く設定しておりますが、「後でまとめて見よう」と思っているうちに、気づけば最終日が近づいてしまうことも少なくありません。ぜひ早めにご視聴いただき、関心の高い演題から順にご覧いただくことをお勧めします。

また、オンデマンド配信の対象となる演題の多くが「認定医更新セミナー」の単位を取得可能です。詳細は第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会ホームページ「オンデマンド配信」よりご確認ください(<https://convention.jtbcom.co.jp/jstct2026/live/index.html>)。

▼当日参加者数の多かった特別演題

当日、特に多くの参加者を集めた特別演題は以下の3セッションでした。いずれも、現在の移植医療の現場が抱える課題を反映した、非常に関心の高いテーマであったと感じています。

1. チーム医療2「移植患者の食事制限緩和を目指した全国調査」
2. パネルディスカッション「大細胞型B細胞リンパ腫に対するCAR-T細胞療法・二重特異性抗体・移植の使い分け」
3. チーム医療1「行動経済学を応用した患者・家族とのコミュニケーション法」

また、教育講演では、以下の3演題への関心が特に高く、多くの方にご参加いただきました。

1. 教育講演 6「論文作成に使えるAI活用法」演者：大塚 篤司 先生
 2. 教育講演10「造血細胞移植におけるEmergency」演者：田中 喬 先生
 3. 教育講演 5「EZRアドバンスド講座～深く理解し、深く解析する～」演者：神田 善伸 先生
- もちろん、会場規模や時間帯、他セッションとの重なりの影響もあり、参加人数上位に入っていない演題の中にも、非常に示唆に富むセッションが数多く含まれています。特に若手医師の皆さまには、臨床研究を始めるための基礎として、教育講演1、4、8、9もぜひご視聴いただきたいと思います。

また、腹部超音波ハンズオンセミナー「やってみようHokUS-10! 活用しようHokUS-10!!」は、病棟での診療に直結する実践的な内容であり、今後の臨床に役立つ企画として強く印象に残っています。さらに、特別公開講座「血液内科・生殖医療・患者がつくる連携のかたち～もし、妊孕性温存のことを聞かれたら、あなたならどう答えますか?～」は、日常診療の中で見過ごしてはならない重要な視点を改めて考える機会となる内容でした。加えて、ワーキンググループ成果発表会では、2025年以降に公表された日本のエビデンスが一挙に紹介されており、日本発の臨床研究の現在地を知るうえで、ぜひ多くの方にご覧いただきたい企画です。

【アンケートご協力のお願い】

4月中旬に総会アンケートを実施予定です。JSTCT2027以降の総会運営や今後力を入れてほしいテーマなどに加え、学会全体への要望についてぜひ率直なご意見をお寄せください。総会は、主催者だけで完成するものではなく、ご参加くださる皆さまのフィードバックによってより良いものになると考えております。

「この企画が良かった」

「この点は改善してほしい」

「今後はこうしたテーマを取り上げてほしい」

といったお声が、次回以降の総会をより良いものにし、学会全体の方向性にもつながっていきます。ぜひご回答いただけますと幸いです。

改めまして、JSTCT2026へのご参加、ご発表、そして学会運営へのご協力を深く感謝申し上げます。オンデマンド配信を通じて、今回の総会の学びをそれぞれの現場で深めていただくとともに、アンケートへのご協力を通じて、次の学会づくりにもお力をお貸しいただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第48回 48th JSTCT Annual Meeting (JSTCT2026)
Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy

日本造血・免疫細胞療法学会総会

ひとりでも
多くの患者さんに完治を

会長 **福田 隆浩**
国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科

会期 2026年2月27日(金)・28日(土)・3月1日(日)

会場 **東京国際フォーラム**
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号



JSTCT2026

2026学会年度 社員総会・評議員会 承認・決定事項等のお知らせ

2026学会年度第1回定時理事会および2026学会年度定時社員総会(いずれも2月27日開催)において承認・決定されました事項(一部、上記以降の理事会メール審議にて承認された事項含む)をお知らせいたします。

I. 事業並びに会計について

2025学会年度事業報告並びに会計決算案、2026学会年度事業計画並びに会計予算案について審議され、決定・承認されました。

《決定・承認された会計決算案および会計予算案》

一般会計：2025学会年度決算案、2026学会年度予算案

特別会計：2025学会年度決算案、2026学会年度予算案

- 造血幹細胞(骨髄・末梢血・臍帯血、自家・血縁・非血縁)移植症例一元化登録フォローアップ/データ解析・利用事業
- 造血幹細胞ドナー(血縁・非血縁の骨髄、末梢血)採取事例一元登録フォローアップ/データ解析・利用事業
- 臨床研究推進事業
- 認定医制度事業
- 看護師研修事業
- 人材育成事業
- 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会(決算案)
- 第49回日本造血・免疫細胞療法学会総会(予算案)

II. 定款および定款施行細則の改定

1. 定款の改定

第10条(役員)

1. 本法人に理事20名以内(ただし、~~第11条2項により理事を選任する場合は21名以内~~)、監事3名以内、総会会長1名、次期総会会長1名、次々期総会会長1名、次々次期総会会長1名を置く。

※取消線部分を削除

2. 定款施行細則の改定

第12条(評議員の選任)

3. 理事評議員選任委員会は定時社員総会の1ヶ月前までに選任会議を開催し、評議員を選任する。研究業績、医療業績、~~コメディカル業績~~ メディカルスタッフ貢献実績の3分野別に客観的に公平に評議員を選任する。専門性、地域性などの学会運営上の必要性、及び一般社団法人日本造血細胞移植データセンターへの移植データ報告件数も考慮する。選任基準は公開とする。

※取消線部分を削除、下線部分を追加

Ⅲ. 役員、新評議員、各種委員会新委員等の選任について

2026学会年度からの役員、新評議員、各種委員会新委員等として、以下の方々が選任されました(以下、全て敬称略、順不同)。

1. 理事長・副理事長：

福田隆浩(理事長)、神田善伸(副理事長)、前田嘉信(副理事長)
2. 理事(改選11名)：

[内科] 加藤光次、土岐典子、西田徹也、前田嘉信、松岡賢市、宮本敏浩、森 毅彦、
矢野真吾

[小児科] 澤田明久

[基礎] 森島聡子

[看護部] 森 文子
3. 監事(改選1名)：

中前博久
4. 新評議員(19名)：

[医師] 岡部基人、梶 大介、北村 亘、久野雅智、小池隆志、島 隆宏、高嶋秀一郎、
西川彰則、平川経晃、平林真介、藤原英晃、宮崎幸大、村主啓行

[看護師] 犬童千恵子

[HCTC] 石塚潤子、大岩真希、武田みずほ

[薬剤師] 衆 哲雄、中島寿久
5. 次々期総会会長(令和11年・第51回学会総会)：

神田善伸(自治医科大学血液学部門)
6. 新名誉会員：

赤塚美樹、吾郷浩厚
7. 新功労会員：

張替秀郎、平山雅浩、足立壯一
8. 各種委員会： ※新委員長・新副委員長・新委員のみ記載
 - 1) 在り方委員会：神田善伸(新委員長)、宮本敏浩(役職委員)、山花令子
 - 2) 編集委員会：梅田雄嗣、橋本大吾
 - 3) 広報委員会：薬師神公和
 - 4) 理事・評議員選任委員会：福田隆浩(新委員長)、矢野真吾(新副委員長)、前田嘉信、加藤光次、
森 毅彦、池田宇次
 - 5) ドナー委員会：土岐典子(新委員長)、清水啓明
 - 6) 看護部会：犬童千恵子(新副委員長)、藤浦亜耶、加藤仁美、清水典江、谷山絵美
 - 7) 社保委員会：久野雅智、近藤忠一、澤田明久
 - 8) 認定・専門医制度委員会：松岡賢市(新委員長)、河北敏郎
 - 9) 国際委員会：熱田由子(新委員長)、名島悠峰
 - 10) HCTC委員会：小野寺晃一

- 11) 財務委員会：前田嘉信(新委員長)、宮本敏浩(役職委員)、松岡賢市(役職委員)
- 12) 移植施設認定委員会：堀 大紀
- 13) 学術集会企画委員会：矢野真吾(役職委員)、福田隆浩(役職委員)、神田善伸(役職委員)、前田嘉信(役職委員)、大井 恵
- 14) 年次集会プログラム委員会：矢野真吾(新委員長)、西脇嘉一(新副委員長)、仲宗根秀樹、宮本敏浩、橋本大吾、寺倉精太郎、神尾卓哉、久野雅智、藤 重夫、杉田純一、名島悠峰、西田徹也、加藤元博、田上 晋、薬師神公和、森 康雄、緒方正男、松岡賢市、田中正嗣、森 有紀、横山洋紀、森 文子、安斎 紀、梅本由香里、小嶋順子、黒澤彩子、名和由一郎、土岐典子、秋山政晴、加藤光次、塚田信弘、堺田恵美子、富澤大輔、赤星 佑、内田直之、新井康之、伊藤 歩、賀古真一、服部大樹、熱田由子、細川晃平、櫻井政寿、飯田美奈子、西川彰則、諫田淳也、石井敬人、日野雅之、神田善伸、森 毅彦、池亀和博、齋藤 健
- ※委員長(総会会長)指名の単年のプログラム委員のみ掲載

IV. 表彰等について

《造血細胞移植功労賞(敬称略、順不同、所属は受賞時)》

[医 師] 高上洋一(聖路加国際病院 元特別顧問)

河野嘉文(霧島市立医師会医療センター 病院長)

[非医師] 橋本明子(NPO 法人血液情報広場・つばさ 理事長)

《第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会奨励賞(敬称略、順不同、所属は受賞時)》

中井りつこ(大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学)

守山喬史(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学)

柴田 翔(京都大学大学院医学研究科)

多賀祐子(岡山大学病院 看護部)

《2025年度 JSTCT Working Group Research Award(敬称略、順不同、所属は受賞時)》

石田悠志(岡山大学病院 小児科)

柳沢 龍(信州大学医学部附属病院 輸血部)

渡邊瑞希(国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科/遺伝診療部門)

中舎洋輔(大阪公立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科)

島津 裕(京都大学医学部附属病院 次世代医療・iPS細胞治療研究センター)

《JSTCT2025若手優秀研究賞(敬称略、順不同、所属は受賞時)》

藤岡真知子(佐世保市総合医療センター 血液内科)

山本丈太郎(虎の門病院 血液内科)

小倉早妃(岡山大学病院 医療技術部 歯科衛生士室)

森口 慎(大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学)

村尾昌信(京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

永野智浩(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学)

前垣雅哉(米子医療センター 血液腫瘍内科)

能野翔太(山口大学医学部附属病院 第三内科)

柴田 翔(京都大学大学院医学研究科 血液内科学)

八木 悠(都立駒込病院 腫瘍内科)

《HCT Contribution Award 2025 (敬称略、順不同、所属は受賞時)》

▼拠点病院および公募による推薦からの受賞者

清水和子(山口大学医学部附属病院 看護部 患者支援センター)

福地朋子(大阪母子医療センター 看護部)

山中里美(東京都済生会中央病院 造血・免疫細胞療法センター)

武清孝弘(今村総合病院 リハビリテーション部)

池上由美子(梅花女子大学看護保健学部 口腔保健学科)

加藤裕子(安城更生病院 血液内科)

木口大輔(愛媛県立中央病院 リハビリテーション部)

山崎奈美恵(札幌北榆病院 移植医療支援科)

飯崎淑恵(埼玉県立がんセンター 血液内科)

▼第47回総会コーディネート関連発表者からの受賞者

田中里苗(大阪公立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科)

V. 次回学術集会

《令和9年・第49回日本造血・免疫細胞療法学会総会》

総会会長：矢野真吾(東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科)

会 期：2027年3月4日(木)・5日(金)・6日(土)

会 場：パシフィコ横浜

ワーキンググループ 新規メンバー募集のお知らせ ／ 二次調査実施のお知らせとご協力のお願い

造血細胞移植登録一元管理委員会

ワーキンググループ (WG) 新規メンバー募集のお知らせ

今年もワーキンググループの新規メンバーを募集いたします。奮ってご参加ください。

なお、メンバーには資格条件がありますので、日本造血・免疫細胞療法学会ホームページの「[ワーキンググループ \(WG\)](#)」ページより「造血細胞移植登録一元管理委員会が設置するワーキンググループ運営に関する細則」・「WG新規メンバー公募案内」をご確認ください。

現在参加中のワーキンググループの異動を希望される場合は、学会ホームページの同ページ内「WG異動申請案内」をご確認の上、申請をしてください。

【WG新規メンバー応募方法】

日本造血・免疫細胞療法学会ホームページより申請フォームにて応募

- 申込期限 2026年5月31日(日)締切

【WG異動申請方法】

異動申請書を日本造血細胞移植データセンター宛てにメールにて送付

- 申込期限 2026年5月31日(日)締切
- E mail 送信先 jdchct-dc@jdchct.or.jp

※書類に不備がある場合には、申請を受理できない場合があります。

二次調査実施のお知らせとご協力のお願い

2026年3月8日(日)にプレゼン審査を実施し、一元管理委員会で承認された二次調査研究につきまして、日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)が代行で二次調査を実施します。対象施設となった際は、ご協力をお願い申し上げます。(2026年度実施：2研究)

◎ WG4 急性リンパ性白血病(ALL)【成人】

『Ph陽性ALLにおける移植後第2/3世代TKIを用いた予防投与の意義』

国立がん研究センター中央病院 赤星 佑

◎ WG24 細胞治療

『CAR-T細胞輸注時刻がCAR-T療法の治療成績に及ぼす影響』

北海道大学病院 荒 隆英

HCTC委員会からの報告

ご挨拶

HCTC委員会 委員長 矢野 真吾

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会において、HCTC委員会は「HCTCラウンジ」「HCTCワークショップ」「HCTC認定更新セミナー」の3つのセッションの準備をしました。いずれの会場も、現場の熱意を感じさせる活発な議論の場となり、多くの皆様にご参加いただけましたことは、委員会として大きな喜びです。当日会場に足を運んでくださった皆様、そして多忙な業務の傍ら質の高いセッション実現のために準備にあたったHCTC委員会のメンバーの皆様に深く感謝いたします。今回の成果を糧に、今後もHCTCの専門性向上とネットワークの発展に尽力してまいります。

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 HCTC関連報告

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会では、HCTC関連セッションが多数開催され、移植医療におけるHCTCの役割の広がりと重要性を改めて感じる機会となりました。初日のHCTCラウンジ第1部では、約130名のHCTCおよびHCTCを目指す参加者が集い、経験年数別に6～7名のグループに分かれてグループミーティングが行われました。日頃感じている困りごとや疑問、共有したい課題について活発な意見交換がなされ、経験の近いHCTC同士が率直に語り合うことで、各施設に共通する課題や他施設の工夫を知る貴重な機会となりました。続く第2部では、HCTC委員会より活動報告が行われ、認定講習の実施状況や認定取得までの流れが分かりやすく示されました。また、昨年度新たに認定HCTCとなられた方々を参加者全員で拍手をもって称える時間も設けられ、会場は温かな雰囲気になっていました。

学会2日目のHCTCワークショップでは、「海外在住ドナーのコーディネート」をテーマに、複数施設から実際の事例に基づく発表が行われました。コロナ禍の事例も含め、言語やシステムの違い、感染制御といった多くの課題が共有される中で、倫理性と安全性を重視しながら対応しているHCTCの取り組みが示されました。また、HCTCラウンドテーブルでは、HCTC・医師・看護師長の立場から、HCTCが施設内で役割を確立していく過程での課題や工夫が共有され、今後の活動の参考となる内容でした。

最終日のHCTC認定更新セミナーでは、「ドナー団体傷害保険と適格基準」をテーマに、株式会社厚生会および東京海上日動火災保険株式会社の担当者や当学会ドナー委員会副委員長の池田和彦先生(福島県立医科大学)から講演が行われ、ドナーの安全性や保険制度への理解が

深められました。

このほか、HCTCによる口演・ポスター発表においても多くの知見が共有され、各会場では活発な議論が交わされました。いずれのセッションもほぼ満席となり、他職種からの参加も多くみられ、全国の移植施設においてHCTCの配置が進み、その役割が広く認識されていることがうかがえました。また、HCTC自身が意欲的に学びを深め、より質の高い支援の提供に努めている姿が印象的でした。

HCTCワークショップおよび認定更新セミナーは、5月11日までオンデマンド配信でもご覧いただけます。今後とも、HCTC活動へのご理解と、移植施設における体制整備へのご協力を賜れましたら幸いです。



看護部会企画

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会を終えて

奥田 生久恵（国立がん研究センター中央病院 看護部）

森 文子（国立がん研究センター中央病院 看護部）

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会が、2026年2月27日～3月1日の3日間、東京国際フォーラムで開催されました。国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科・福田隆浩会長のもと、「一人でも多くの患者に完治を」をテーマに、多くの移植拠点病院や当院スタッフ、企業、そして当日参加の多職種の皆さまと一緒に作り上げた学会となりました。参加登録は4,000名を超え、当日の来場者も3,671名と、会場は大変にぎやかな雰囲気でした。

今回は、これまで以上に“多職種で語り合う”“会場が一緒に参加する”という新しい取り組みに挑戦しました。特に、多職種で意見交換を行うセッションを複数企画し、日々の実践に直結する内容を共有することができました。ランチセミナーでは大阪大学・大竹文雄先生より、行動経済学を医療現場で活かす「ナッジ」の実践について、具体例を交えてお話しいただきました。その後のチーム医療セッションでは、医師・看護師・移植コーディネーターが、それぞれの立場で悩む場面を取り上げながら「患者・家族とのコミュニケーション」を一緒に考えました。日常の場面が多く示され、参加者からも「明日から使えそう」と好評でした。3日目には、どの施設でも悩みの多い“移植後の食事制限”について、会場の皆さんとともに検討しました。地域差の話題の際には、会場から思わず笑いが広がる場面もあり、参加型ならではの温かい雰囲気に包まれました。教育講演では、初心者向けの患者指導から、複雑な移植後合併症の管理まで幅広い内容が取り上げられました。看護実践に必要な視点や観察ポイントが具体的に示され、明日からのケアにつながる学びが得られたことと思います。看護シンポジウムでは「移植看護師の育成」をテーマに、やりがい、倫理課題への向き合い方、「クリニカルラダー」活用の工夫など、会場と一緒に考える時間となりました。

さらに、移植看護グループミーティングには73名が参加し、21名のファシリテーターのサポートのもと、「LTFU外来」「家族看護」「意思決定支援」「移植看護ビギナーズ」など7つのテーマで意見交換を行いました。今回は特に、若手看護師の参加を促す目的で「移植看護ビギナーズ」を新たに設けましたが、このグループでも活発に意見が交わされ、移植看護への思いや日々感じている悩みを率直に語り合う姿が印象的でした。参加した皆さんからは、自分だけでは気づけなかった視点を共有できたという声も聞かれ、今後の臨床での活躍がますます期待されます。どのグループでも、日頃の悩みや課題を共有しあうことで、それぞれの施設に持ち帰れるヒントや学びが多く生まれたように感じます。

ご参加、ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。次回、横浜で行われる第49回総会でも、多職種チームの皆さまと再びお会いできることを楽しみにしております。

私の選んだ重要論文

Booker R, McLennan AIG, Beattie S, Stajduhar KI, Sawatzky R.

Integrating palliative care in hematopoietic stem cell transplantation: A qualitative study exploring patient, caregiver, and clinician perspectives.

Oncology Nursing Forum. 2023; 50 (3) : 313–323.

造血幹細胞移植 (Hematopoietic Stem Cell Transplantation : HSCT) は血液悪性腫瘍に対して治癒を目指して行われる治療である。しかしその過程では、強い身体症状や長期入院、重篤な合併症を伴い、患者や家族は大きな負担を抱える。近年は高齢患者や再発を繰り返す患者など、ハイリスク下での移植数の増加もあり、症状緩和や心理的支援の重要性が注目されている。しかし、日本ではHSCT患者のエンドオブライフケアや緩和ケアに関する研究はまだ多くない。そこで本稿では、HSCT患者への緩和ケアの統合について患者・家族・医療者の視点から検討したBookerら(2023)の研究を紹介する。

本研究はカナダで行われた質的研究であり、HSCTを受けた、あるいは受ける予定の患者8名、家族介護者4名、HSCTに関わる医療者(医師、看護師、ソーシャルワーカーなど)16名を対象に半構造化インタビューを実施し、緩和ケアの捉え方について分析している。

分析の結果、①HSCTの過程および移植後における懸念や困難、②HSCTに緩和ケアを取り入れることへの葛藤、という2つのテーマが抽出された。患者や家族は、移植に伴う身体症状や長期入院、先の見通しが立ちにくいことへの不安を抱えていた。緩和ケアについては「終末期医療」というイメージが依然として強く、HSCTとの両立に葛藤や戸惑いを抱く患者や医療者も少なくなかった。さらに、HSCTチームと緩和ケアチームの役割分担や導入時期について明確な合意がないことも示された。

HSCTは治癒を目指す治療である一方で、重い合併症や再発など予後の不確実性を伴う。「緩和ケア」という言葉が患者の希望を損なうのではないかと懸念から、導入のタイミングが難しいと感じる医療者もいる。本研究は、そのようなHSCT領域特有の葛藤を患者・家族・医療者の語りから示した点で意義がある。

一方で、本研究は対象数が限られており、HSCT患者の多様な臨床状況を十分に反映しているとは言いがたい。また、HSCT特有のケアニーズについての検討は限定的であり、今後は臨床経過や症状負担などを踏まえた知見の蓄積が求められる。

日本の臨床においても、HSCT患者は長い治療過程の中で多くの負担を抱えている。看護師にとって、症状緩和や不安への寄り添いは日常的に行われているケアであり、緩和ケアの重要な要素でもある。HSCTでは、治療過程と終末期の境界が最後まで見えにくいことが特徴である。不確実な状況における看護のあり方を再考するうえで、本研究は示唆を与える。

さらに、HSCTにおけるエンドオブライフケアは、このような「治療と終末期の境界のあいまいさ」の中で実践されている。本研究は緩和ケア導入に対する認識や葛藤を明らかにしているが、そのような状況において看護師がどのように患者や家族を支えているのかという実践の具体像は十分に明らかにされていない。今後は、HSCTの臨床における看護実践に焦点を当て、その構造を明らかにしていくことが求められる。

施設紹介

大分大学医学部附属病院 血液内科

諸鹿 柚衣 緒方 正男

大分大学医学部附属病院血液内科は、大分県における造血器疾患診療の中核施設として、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの造血器腫瘍から、再生不良性貧血やITPなどの非腫瘍性疾患まで、幅広く専門診療を展開しています。

造血幹細胞移植については、同種・自家移植を合わせて年間約30件（うち同種移植20～25件）を実施しています。骨髄、末梢血、臍帯血、ハプロ移植にも柔軟に対応し、地域の基幹施設として患者さんを受け入れています。また、2023年より導入したCAR-T細胞療法にも積極的に取り組んでいます。現在は4種類の製品に対応可能な体制を整え、実施件数も着実に増加しています。

診療を支える基盤として、多職種連携によるチーム医療を徹底しています。毎週火曜日の多職種カンファレンスには、医師、看護師、薬剤師、輸血部臨床検査技師、歯科衛生士、管理栄養士、理学・作業療法士、メディカルソーシャルワーカー、造血細胞移植コーディネーターが一同に介し、個々の症例の課題を多角的に検討しています。

教室の雰囲気は、比較的若いスタッフが多く、日常的に活発なディスカッションが行われる風通しの良さが特徴です。また、県内外の関連施設と強固なネットワークを構築しており、地域全体の血液内科医療のボトムアップに貢献することを使命としています。



多職種カンファレンスにおけるスタッフの集合写真

教育・研究面では、次世代を担う血液内科医の育成に力を注ぐとともに、臨床に直結した研究を推進しています。特に移植後HHV-6B感染症の解明と克服を目指した研究は、当科が長年継続してきたアイデンティティとも言える重要なテーマです。今後も臨床現場の疑問 (Clinical Question) を起点とした研究を通じ、造血器疾患における合併症の克服と治療成績の向上に寄与していきたいと考えています。

今後もスタッフ一同、地域の患者さんに最良の医療を提供し、造血免疫細胞療法のさらなる発展に貢献できるよう邁進してまいります。引き続き、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「同世代の輪」が拓く未来

京都大学医学部附属病院 血液内科・細胞療法科 新井 康之

虎の門病院の梶大介先生からご指名いただいた、京都大学の新井康之です。平成18年(2006年)の卒業ですので、医師になってちょうど20年になります。月日が経つのは早いもので、あと20年すれば定年を迎えることに先日気づき、驚嘆する日々です。

そんな中、最近楽しくなってきたことのひとつが、「近い世代の先生方」との交流です。従来より、学会参加を通じて、いろいろな先生方と知り合う機会は多くありました。しかし、移植やCAR-T細胞療法など、自分に取り組んでいた専門分野内での「縦」の付き合いが多かったように思います。そのため、例えば、造血不全や骨髄腫といった、自分が不得手とする領域の先生方については、年齢が近くてもほとんど知らないという状況でした。

それが年を重ねたおかげで、学会の委員会活動などをさせていただけるチャンスが巡ってくると、疾患領域が異なり、名前しか知らなかった先生が自分と同年だったことを知る機会が出てきました。同世代の先生とはいろいろな話が盛り上がります。さらにそこから輪が広がり、最近では、全国の同世代の先生たちを集めた勉強会を定期的で開催しており(スポンサーをしてくださる企業がうまく見つかりまして)、確実に「同世代の輪」は強固になっています。

その輪の中で何をするか?他愛もない話をして飲んでいただけですが、話の端々に出てくる仕事上の失敗談や悩み相談は「明日は我が身」という話ばかりで、その解決策も、さすがは皆さん医師20年選手だけあって、本当に目からうろこが落ちる内容ばかりです。それだけでなく、日本の移植・細胞療法や血液学をいかに発展させるか、共同研究の話など大きな話も出てきて、各自が担当する委員会や研究活動に即座に還元されるなど、同世代の輪は意外に生産的な役割を果たしています。また、みんなで学会を盛り上げていこうというモチベーションにもつながっている気がします。

それはそれで今後も継続し、さらなる輪の拡大を目指しますが、このような同世代の輪が10年前にあれば良かったのになと思います。研修医を終え、自立できるようになる卒後5年目ごろから、大学院に進みながら将来の進路に悩む卒後10年目ごろまで、同世代の先生方と将来の夢や希望、悩みを共有できる輪があれば、心強いサポートになるでしょう。また、連携して学会を盛り上げていく気運にもつながるかもしれません。そのような連携が実現するよう支援する仕組みを、今考えているところです。

コスパ、タイパ、自動化、AIなど、時代の流れがどのように変わろうとも、最終的には、われわれは人間の病気を対象としている以上、人と人とのつながりの重要性は変わらないと考えます。その中で構築される「同世代の輪」は本当に貴重な存在ですし、この輪に加わってくださっている先生方に改めて感謝を申し上げたいと思います。あと20年(そしてそれ以上)、どうぞよろしく申し上げます。

次号予告 次回は、徳島大学病院 血液内科 橋田 里妙 先生です!

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 事務局

名古屋市西区那古野二丁目23-21-7d号 (〒451-0042)

Tel: 052-766-7127 Fax: 052-766-7137 E-mail: jstct_office@jstct.or.jp <https://www.jstct.or.jp/>